

辞書研究に基づく対人特性語の構造の検討^{1), 2)}

橋 本 泰 央

早稲田大学大学院文学研究科
帝京短期大学ライフケア学科

小 塩 真 司

早稲田大学文学学術院

本研究では辞書から抽出した対人特性語から円環構造が見出されるかどうかを検討した。大学生719人の回答をもとに主成分分析を行い、第1主成分と第2主成分からなる平面上に対人特性語をプロットすると円環状の配置が得られた。また海外の先行研究同様、支配性と親密性と解釈可能な2つのほぼ直交する軸が見出された。このことから対人特性の円環構造と支配性・親密性の軸の汎文化的特性が示唆された。外向性を表す対人特性語群の配置も先行研究通りであった。一方、協調性を表す対人特性語群の配置は海外での先行研究とは異なり、親密性寄りに配置された。今回円環上に配置された対人特性語群は語彙プールとしての活用が今後期待される。

キーワード：語彙研究、対人、円環

問題と目的

対人円環モデル (Interpersonal Circumplex Model: 以下、IPC) はパーソナリティの構造モデルの1つである (Leary, 1957)。あるタイプの対人行動に向かう個人の傾向または対人スタイルを表す対人特性 (大渕・堀毛, 1996) が2次元平面上に円環状に配置され、概念上類似した特性は近くに、類似度の低い特性は遠くに、対極的概念の特性は円環上も対極に配置される。つまり概念同士の関係を幾何学的な位置関係に置き換えて表現したモデルである。円環上に布置する特性の数はモデルによって異なるが (Plutchik & Conte, 1997 参照)，測定の利便性、特性同士の識別性から8特性モデルが広く使われている。代表的なIPCで

ある Interpersonal Adjective Scale (以下、IAS; Wiggins, 1979) では、Leary (1957) の対人サークルと Foa (1965) の理論を参考に、円環の12時の位置から反時計回りに自信過剰・支配的 (PA), 傲慢・打算的 (BC), 冷淡・冷たい (DE), 孤独・内向的 (FG), 自信のない・服従的 (HI), 謙虚・率直 (JK), 温和・友好的 (LM), 群居的・外向的 (NO) の8つの対人特性が等間隔で配置されている (Figure 1)。

対人特性の円環構造は語彙研究でも見出されている。語彙研究とはパーソナリティの重要な個人差が言語の中に符号化されているとする言語仮説のもと、パーソナリティを表現する語彙の中からパーソナリティ構造を見出そうとする研究を指す (Allport, 1937)。スウェーデン語 (Rosén, 1992) やオランダ語 (De Raad, 1995), イタリア語 (Di Blas & Forzi, 1998) の語彙研究では、自己評定や他者評定で得られた対人特性語データに対して主成分分析を行った結果、対人特性語が2次元平面上に円環状に分布し、概念上類似した語同士は近

1) 本研究の一部は、JSPS科研費18K03084の助成を受けて実施された。
2) 調査にご協力いただいた皆様、および論文審査に際し数々の有益なご指摘を下さいました査読者の先生方に深く御礼申し上げます。

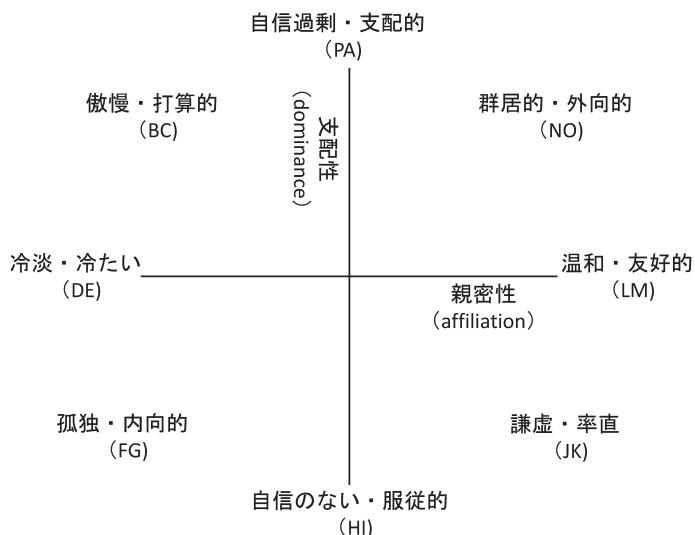


Figure 1 Wiggins (1979) の対人円環モデル

くに、対極的な語は対極に配置されたと報告されている。

IPCでは支配性 (dominance) と親密性 (affiliation) の次元を基本軸とするモデルが広く受け入れられている (Wiggins, 2003)。支配性は自信や自己主張の強さ、他者に対する支配的態度を、親密性は他者に対する温かで思いやりのある態度を意味する。この2次元は、社会学で見出されたメタ概念である他者への働きかけ (agency) と交流 (communion) にそれぞれ含まれ、対人問題研究や心理臨床領域、語彙研究でも見出されていることから、対人領域を規定する基本的次元と考えられている。IASではPAとHIを結んだ軸が支配性に、LMとDEを結んだ軸が親密性に相当する。

この2軸は、パーソナリティの Five Factor Model (以下、FFM) の外向性と協調性の次元を約45°回転させたものに相当すると考えられている (McCrae & Costa, 1989)。IPCの2軸とFFM5因子の相関関係を算出し、IPC平面上に5因子を配置した先行研究では、外向性がNO付近に、協調性がJK付近に繰り返し配置されている (例えばMcCrae & Costa, 1989)。つまり外向性はIPC上では親密性と支配性がともに正、協調性は親密性が正で支配

性が負の特性として表現される。外向性と協調性はFFMの他の3因子（誠実性、神経症傾向、開放性）に比べ支配性と親密性との相関も高いことから、FFMの中でも対人的側面が強いと考えられている。これらのことからIPCは外向性と協調性で構成される次元をより詳細に表現したモデルで、FFMとは相補的関係にあると考えられている (Wiggins, 2003)。

現在IPCは対人関係に関連するパーソナリティモデルの1つとして重要な役割を果たしている。IPCとFFMを組み合わせた尺度 (Trapnell & Wiggins, 1990) も開発されており、パーソナリティのより詳細な測定が可能となっている。IPCはまた、多様なパーソナリティ概念を整理するための法則定立ネットワークや (Wiggins & Broughton, 1991)、尺度構成時の外的基準 (例えばJones & Paulhus, 2014) として活用されている。さらに恋人 (Markey & Markey, 2007) やルームメイト (Ansell, Kurtz, & Markey, 2008) などの2者の関係性を探る研究や、臨床現場における患者の行動の測定 (Mendez, Owens, Jimenez, Peppers, & Licht, 2013) にも利用されている。

その一方で、日本における対人特性研究は十分

に行われているとは言いがたい。戸苅（1977）は Leary（1957）の対人サークルを翻訳し、日本語の特徴を考慮した改訂を行っているが、信頼性や妥当性の詳細が示されておらず、広く使われないまま現在に至っている。今川・津村・大坊・林（1984）は先行研究を参考に選んだ対人行動55項目がほぼ円環構造をなし、「支配-服従」「受容-拒否」と解釈可能な2つの直交軸を確認しているが、得られた因子と Leary（1957）との対応は必ずしも十分ではないとしている。水野（1994）は Wiggins（1979）から抽出した16項目を翻訳して調査・分析を行ったが、2次元平面上への項目配置は不規則で2軸の直交性も不明確であり、円環が形成されるとは言いがたいと結論している。Isaka（1992）は自由記述で得たパーソナリティ特性語から75語を選び、パーソナリティの5因子が見出されるかどうかを探る過程でIPCに相当する円環構造が見出されたとしている。しかし支配-服従の軸は外向-内向の軸と重なっており、これが日本人の対人特性構造を反映しているのか、あるいは限られた語彙数を対象としていることに原因があるのかは明らかでない。

橋本・小塩（2016）は Markey & Markey（2009）が作成したIPCの翻訳版（IPIP-IPC-J）を作成し、日本でも対人特性が円環構造で示されると示唆している。しかし、翻訳尺度を使用していることから、得られた円環構造が日本人の対人特性の特徴をどの程度適切に反映しているかは定かではない。翻訳尺度の使用は、文化間の共通性を強調し、文化間に存在するかもしれない違いを覆い隠す可能性も指摘されている（Di Blas & Forzi, 1998）。日本の社会や文化を反映した対人行動の特徴や対人関係のあり方を知るために、日本語の対人特性語に基づいて、対人特性の基本的次元を明らかにする必要があると考えられる。

橋本（2018）は広辞苑第六版（新村, 2008）と大辞林第三版（松村, 2006）を用い、大学生5名の協力を得て、収集ルール（村上, 2002）に従い

パーソナリティ表現用語を抽出した。その中から、意味がわかりやすく、日常的にも使用すると大学生が回答した語を対象に、人と接する際のパーソナリティを表現する用語として適切か否かの調査を行っている。本研究では対人特性語として適切とする回答割合が高かった用語を対象に、以下の仮説を検証する。第1に、海外の語彙研究の結果から、日本語の対人特性語データに対して主成分分析を行うと、対人特性語が第1・第2主成分で構成される2次元平面上に円環状に配置され、支配性、親密性と解釈可能な直交軸が見出される。第2に、IPCとFFMの関連を調べた先行研究結果から、概念上類似した特性語はお互い近くに、対極的な特性語同士は円環上も対極に配置され、外向性と協調性を表す対人特性語は支配性と親密性の軸を約45°回転させた位置（軸と軸の間）にそれぞれ配置される。

方 法

調査協力者 大学生792名（男性339名、女性449名、不明4名）を対象とした。平均年齢は19.1歳（SD=1.2）であった。

質問項目 橋本（2018）の対人特性語リストのうち339語を使用した。これらは意味がわかりやすく、日常的にも使用すると大学生が回答し、かつ対人特性語として適切と回答した用語である³⁾。

質問紙 調査協力者の負担を考え、339語を4分割して84語もしくは85語からなる語彙セット（例えばA, B, C, D）を作り、その2つずつを組み合わせて169語もしくは170語からなる6種類の質問紙を作成した（例えばAB, AC, AD, BC, BD, CD）。調査協力者には各対人特性語が他者と接する際の自分を表現する言葉として当てはまるかどうかを「ハイ（1点）」「イイエ（0点）」の2件法で回答を求めた⁴⁾。またマーカーとして対人特性尺度の翻訳版であるIPIP-IPC-J（橋本・小塩, 2016）の32項目を各質問紙に含めた⁵⁾。IPIP-IPC-Jへの回答

は5件法で求めた。

分析方法 まず各対人特性語に対する「ハイ」という回答の割合（以下、是認率）を求めた。回答者の負担を考えて2件法で回答を求めたが、その回答の背後に潜在的な連続変数の存在を仮定することが可能であると考えられた。そこで疑似的に連続変数と仮定し（豊田、2012）、2値変数間の相関係数であるテトラコリック相関係数を求め、相関行列をもとに主成分分析を行った。またパーソナリティ表現用語には評価的側面（良いか悪いか）と記述的側面が含まれると言われている（Saucier,

- 3) 対人特性語として適切かどうかの判断は、あるパーソナリティ表現用語を特定の刺激文中に入れた際に表現として適切か否かを2件法で評定する手法で行われた。例えば名詞であれば「彼（わたし）は人に對して〇〇がある（ない）人だ。」という刺激文の〇〇に名詞（例えば誠意、愛敬、独創性）を当てはめた際の文章としての適切さが評定対象であった。全体の回答者における「適切」と回答した者の割合を適切率とし、「彼は」で始まる刺激文での適切率が「他者」、「わたしは」で始まる刺激文での適切率が「自己」として報告されているが、両者の適切率に大きな違いはなかった。そこで語彙研究でパーソナリティ構造を探った先行研究が300語から500語程度を分析対象としていることと、語彙プールとしての活用可能性を考え合わせ、今回は適切率が自己と他者の平均で0.6以上の語（350語）、および自己もしくは他者のどちらかの適切率が0.7以上の語（15語）から、意味が重複すると思われる語（例えば「疑い深い」と「疑り深い」）のうち基本的に適切率の低かった方を除外（26語）した339語を使用した。

- 4) 将来的な自己評定尺度の作成を想定して自己評定を求めた。
- 5) IPIP-IPC-Jの下位次元と項目例は以下の通りである。自信過剰-支配的「皆の関心の中心は私であるべきだ」、傲慢-打算的「相手をめちゃくちゃに言い負かす言葉を言う」、冷淡-冷たい「人のことはあてにできない」、孤独-内向的「知らない人が近くにいると無口になる」、自信のない-服従的「注目を浴びないよう穏やかに話すことについている」、謙虚-率直「大抵のことは許すことができる」、温和-友好的「周りの人の様子を気にかけている」、群居的-外向的「人の集まっているところにいても心地よくいられる」。

Ostendorf, &Peabody, 2001）。この評価的側面は社会的望ましさの影響を受けると考えられるため、パーソナリティ表現用語をもとにパーソナリティ構造を探る際には、評価的側面を切り離す必要性が指摘されている（例えばAllport, 1937）。本研究では先行研究（村上、2003）に従い、回答のばらつきが小さい用語（つまり是認率が高い、もしくは低い用語）には社会的望ましさが反映されている可能性が高いと考え、そうした用語は分析から除外することとした⁶⁾。また、IPIP-IPC-Jの回答に欠損のある回答者は分析から除外した。分析には統計解析ソフトRのpsychパッケージとpolycorパッケージを用いた。

結果と考察

分析対象

各対人特性語への回答者数平均は386（376–394）人であった。是認率の分布は、平均0.44（0.05–0.86, SD=0.19）、尖度–0.96の、ピークの丸みがかかった、尾の短い分布を示した。是認率が.25に満たない70語と.75より大きい10語を除外し、分散の大きい259語を分析対象とした⁷⁾。またIPIP-IPC-Jの回答に欠損のあった73人が除外さ

- 6) 村上（2003）は評価的用語は多くの人が望ましいと見なす用語であるため、意見の一致度が高くなり、個人間分散が小さくなると考えた。そうした用語は自己評定値や他者評定値の平均も中央からの逸脱が大きくなるとし、後の分析対象から除外している。オランダ語で語彙研究を行ったDe Raad（1992）も用語に対する自己評定値の平均値や分散が小さい用語を研究対象から除外している。
- 7) 除外した80語を対象に主成分分析すると、寄与率は第1主成分から順に57.6%, 9.0%, 6.4%...となった。第1主成分には78語が絶対値で.3以上の負荷量を示した。負荷量の絶対値が大きかった対人特性語は反抗的、ふてぶてしい、冷血、生意気、高圧的、攻撃的、粗暴などであり、反対の符号には気遣いする、思いやりがある、礼儀正しいなどがあった。このことから第1主成分は「良い–悪い」の次元を表していると考えられる。つまり80語に対する回答には社会的望ましさが反映されていると解釈できよう。

れ、719人が対象となった。

対人特性語に対する主成分分析

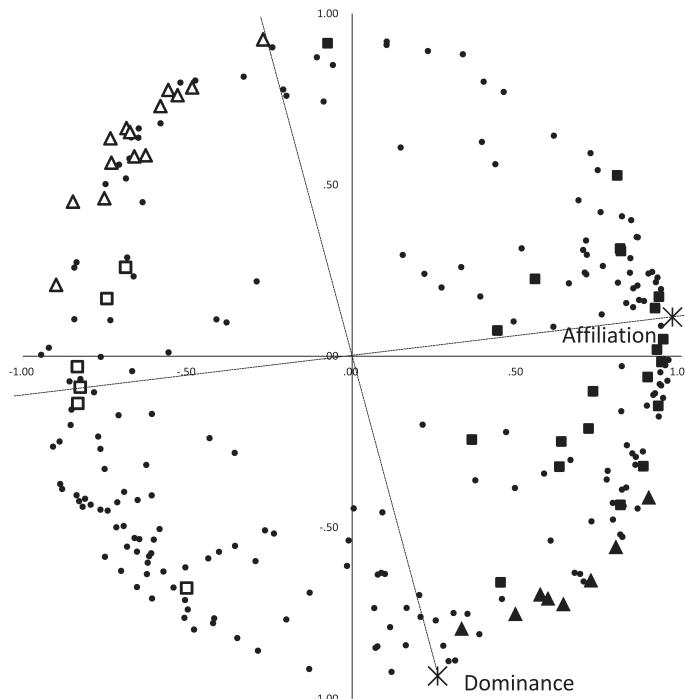
テトラコリック相關行列をもとに行った主成分分析の結果、第2主成分までの累積寄与率は70.1%（43.8%+26.3%）であった。第1・第2主成分への負荷量を2次元平面上にプロットすると仮説通り対人特性語は円環状に配置された（Figure 2）。Table 1には同平面上における対人特性語の角位置と中心からの距離（ベクトル長）を示した。角位置は支配性と親密性の次元と対人特性語との関連を表す。第2主成分への負荷量が正の対人特性語は0°から180°の角位置を、第2主成分への負荷量が負の対人特性語は0°から-180°の角位置をとる。Table 1では概念上類似した語同士は近くに、対極的な語同士は円環のはば対極に配置されている。ベクトル長は第1・第2主成分への負荷量が高いほど大きな値を示す。パーソナリティの特性語からビッグ・ファイブの抽出を試みた先行

研究（Isaka, 1992; 柏木・辻・藤島・山田, 2005; 村上, 2003; 和田, 1996）で5因子のいずれかに分類された特性語については、表の右に記号で記した。

支配性と親密性の軸

IPIP-IPC-JからはWiggins, Phillips, & Trapnell (1989) の公式に従って親密性得点と支配性得点を算出した。内的整合性は $\alpha=.86$ （親密性）、 $\alpha=.89$ （支配性）であった。

IPIP-IPC-Jの親密性と支配性の得点と一緒に主成分分析を行うと、親密性は7°、支配性は-75°に布置された。角位置7°周辺に配置されたベクトル長の長い対人特性語には、素直、理解のある、協調的、心の広いなどがあり、中心を挟んだほぼ対極には素っ気ない、否定的、疑り深い、根に持つなどがあった。前者は他者との良好な関係を、後者は他者との冷えた関係を想起させることから、これらの語群を結ぶ軸は親密性を表すと解釈



注. Affiliation: 親密性, Dominance: 支配性。先行研究で協調性と外向性に分類された語には分類が割れた語を除き、以下の印をつけた。■：協調性、□：非協調性、▲：外向性、△：内向性。

Figure 2 第1主成分と第2主成分によるプロット

Table 1 対人特性語の主成分負荷量・角位置・ベクトル長

対人特性語	主成分		角位置 (度)	ベクトル長	先行研究 による分類	対人特性語	主成分		角位置 (度)	ベクトル長	先行研究 による分類
	1	2					1	2			
細かい	-.56	.01	-179.3	0.55		口が悪い	-.54	-.68	-127.6	0.87	Am, Nk
否定的	-.94	.00	-178.7	0.94		意地を通す	-.51	-.71	-125.2	0.88	
裏表がある	-.76	.00	-178.6	0.77		張り合う	-.50	-.68	-124.3	0.85	Am
けち	-.83	-.03	-176.2	0.84	Ai	辛口	-.50	-.74	-123.8	0.89	Nk
表裏のある	-.67	-.04	-175.6	0.68	Nk	格好をつける	-.44	-.59	-123.7	0.74	Nk
無関心	-.82	-.07	-175.4	0.83		感情的	-.40	-.57	-122.6	0.71	Ni, k
疑り深い	-.86	-.07	-173.6	0.86	Ai, Nk	ああ言えばこう言う	-.51	-.76	-122.6	0.92	
無頓着	-.78	-.11	-172.6	0.80		小生意気	-.48	-.80	-120.0	0.93	Am, Nk
妬む	-.83	-.09	-170.7	0.82	Am	やきもち焼き	-.36	-.55	-119.4	0.67	
根に持つ	-.83	-.13	-169.0	0.84	Nk	ずばずばした	-.42	-.77	-118.1	0.88	
すぐに飽きる	-.85	-.16	-168.6	0.87		すぐに自慢する	-.42	-.78	-116.7	0.89	
すぐにひがむ	-.83	-.14	-167.6	0.84	Am	こだわる	-.26	-.51	-114.4	0.59	
ドライ	-.71	-.17	-167.2	0.74		へらへらした	-.29	-.60	-114.2	0.67	Ck
苛つく	-.85	-.20	-164.6	0.88		負けず嫌い	-.24	-.52	-111.8	0.59	
気難しい	-.89	-.25	-164.5	0.92	Nk	図図しい	-.35	-.82	-111.5	0.90	Ni, Ck
偏見を持った	-.91	-.26	-162.2	0.94		我を通す	-.29	-.86	-108.2	0.91	
好き嫌いがある	-.77	-.23	-162.0	0.81		聞き直る	-.20	-.77	-103.5	0.80	
固執する	-.61	-.17	-161.1	0.62		計算高い	-.13	-.69	-101.1	0.72	
しつこい	-.76	-.27	-157.7	0.80	Ci, Am, Nk	口やかましい	-.13	-.91	-97.1	0.93	Nk
とげがある	-.89	-.37	-156.4	0.96	Aw, Nk	毅然とした	-.01	-.54	-92.1	0.55	
不満の多い	-.88	-.39	-154.9	0.96		夢見る	-.02	-.61	-90.4	0.63	
あっさりした	-.43	-.24	-154.4	0.49		すぐに甘える	.00	-.44	-87.7	0.47	
嫉妬深い	-.75	-.33	-153.9	0.82	Am, Nk	立ち向かう	.07	-.85	-84.6	0.86	
偏屈	-.84	-.41	-153.4	0.93		軽い	.07	-.74	-84.2	0.75	Ck
嘘つき	-.83	-.42	-152.5	0.93	Ci	うるさい	.08	-.85	-83.6	0.86	
小言を言う	-.81	-.42	-151.7	0.91		勝ち気	.12	-.92	-82.2	0.93	Ok
利口ぶる	-.62	-.32	-151.2	0.71		きっぱりした	.08	-.64	-82.0	0.64	
不平不満を言う	-.82	-.44	-150.8	0.93	Nk	ちゃかす	.12	-.79	-81.6	0.81	
辛辣	-.79	-.43	-150.4	0.91		のめり込む	.09	-.63	-80.2	0.66	
シビア	-.69	-.40	-149.1	0.80		さばさばした	.10	-.64	-79.9	0.64	
天邪鬼	-.76	-.45	-148.5	0.88		馴れ馴れしい	.16	-.84	-77.9	0.87	
屁理屈をこねる	-.74	-.45	-147.1	0.87	Nk	競争心のある	.17	-.74	-77.0	0.77	
強がる	-.71	-.43	-146.9	0.82		甘えのある	.09	-.46	-76.7	0.50	Ok
適当	-.61	-.41	-146.1	0.74	Ck	熱くなる	.21	-.76	-74.2	0.80	Nk
飾り立てる	-.65	-.42	-144.1	0.78		ふざける	.20	-.70	-72.4	0.74	
揚げ足を取る	-.72	-.50	-143.4	0.88		口上手	.29	-.89	-71.5	0.94	
虚勢を張る	-.69	-.50	-142.7	0.86		おしゃらけを言う	.28	-.85	-71.5	0.90	
大人ぶる	-.36	-.28	-142.2	0.46		立ち入る	.25	-.77	-70.8	0.81	
意地が悪い	-.75	-.59	-141.0	0.95	Ci, Nk	おしゃべり	.31	-.89	-69.5	0.95	Ni, Emk
利己的	-.68	-.56	-140.1	0.88	Ni, Aw	ちょっといを出す	.31	-.75	-67.2	0.82	
意地つ張り	-.66	-.53	-139.6	0.85	Nk	はっきりした	.33	-.80	-66.5	0.86	Ek
頑固	-.65	-.53	-139.0	0.84	Nk	気が大きい	.35	-.75	-65.6	0.84	
いい加減	-.60	-.54	-138.3	0.81	Ci	口がうまい	.39	-.81	-64.8	0.90	
無神経	-.65	-.57	-137.7	0.87	Ni, Ck	はきはきした	.50	-.75	-56.3	0.90	Ek
執着する	-.58	-.50	-137.7	0.77		率直	.45	-.71	-56.3	0.83	
我儘	-.70	-.63	-137.1	0.94	Nik, Am	情熱的	.45	-.66	-55.7	0.81	Ak
依怙晶脣する	-.61	-.58	-134.8	0.84		リーダーシップがある	.57	-.70	-50.7	0.91	Ek
意地を張る	-.62	-.58	-134.6	0.85	Nk	物怖じしない	.59	-.71	-49.6	0.92	Ei
意地になる	-.62	-.60	-133.6	0.87		積極的	.64	-.72	-48.5	0.97	Eiwk
言葉がすぎる	-.65	-.67	-133.1	0.94	Nk	惚れっぽい	.37	-.36	-46.1	0.56	
すぐに見栄を張る	-.62	-.64	-132.8	0.89	Nk	余裕がある	.60	-.54	-42.8	0.81	
毒舌家	-.57	-.63	-132.1	0.85		オーブン	.70	-.66	-42.6	0.96	Nm
言い過ぎる	-.61	-.71	-129.0	0.94		好奇心がある	.69	-.64	-42.3	0.95	
荒っぽい	-.51	-.62	-128.2	0.81	Ck	さらけ出す	.68	-.63	-42.2	0.93	

Table 1 つづき

対人特性語	主成分		角位置 (度)	ベクトル長	先行研究 による分類	対人特性語	主成分		角位置 (度)	ベクトル長	先行研究 による分類
	1	2					1	2			
外向的	.73	-.65	-41.8	0.98	Eiwmk	一途	.44	.07	9.3	0.46	Ak
さっぱりした	.21	-.20	-41.7	0.28		善意がある	.85	.14	9.5	0.87	Cm
すぐにときめく	.49	-.39	-38.9	0.65		気を利かせる	.83	.15	10.4	0.85	
社交的	.80	-.56	-34.5	0.98	Eiwk	心の広い	.93	.17	11.0	0.95	Aik
すぐに懐く	.73	-.48	-33.9	0.88		良心的	.89	.16	11.1	0.90	Aw, Cm
フレンドリー	.81	-.52	-32.5	0.97		大らか	.87	.16	11.5	0.89	Nk
開放的	.82	-.53	-32.1	0.98	Nm	暖かい	.94	.20	11.6	0.96	Cm, Aik
馬鹿正直	.36	-.24	-30.8	0.45	Ak	気配りのある	.85	.20	12.9	0.88	
無邪気	.79	-.48	-30.8	0.93		温情のある	.87	.21	13.3	0.89	
おせっかい	.58	-.34	-29.7	0.68		親身になる	.92	.22	13.8	0.94	
真っ直ぐ	.79	-.43	-27.9	0.90		親切	.93	.23	13.9	0.95	Awk, Cm
気前がいい	.81	-.43	-27.8	0.92	Ai	優しい	.91	.25	14.4	0.94	Ai, Cm
でれでれした	.47	-.22	-27.2	0.53		献身的	.81	.21	14.7	0.83	Cm
世話焼き	.63	-.32	-27.2	0.71	Ak	寛容	.90	.24	15.4	0.93	
気さく	.87	-.45	-27.1	0.98	Nm	善良	.84	.24	15.9	0.87	
表情豊か	.82	-.44	-27.0	0.94		情け深い	.66	.21	16.5	0.68	Cm, Ak
幅が利く	.77	-.36	-26.3	0.86		気を配る	.85	.29	18.9	0.89	
情に厚い	.82	-.39	-25.7	0.91		紳士的	.71	.24	19.2	0.73	Ok
人懐こい	.83	-.38	-24.9	0.92		聞き上手	.71	.24	19.2	0.75	
責任感がある	.66	-.30	-24.8	0.74	Cimk	慈悲深い	.76	.26	19.3	0.79	
明るい	.90	-.41	-24.2	0.99	Eimk	心配りのある	.82	.31	20.8	0.87	Ak
世話好き	.78	-.33	-23.4	0.85		気遣いがある	.81	.31	21.2	0.87	Ak
正義感がある	.63	-.25	-22.0	0.69	Ak	柔らかい	.86	.35	21.9	0.93	
熱心	.86	-.32	-20.0	0.92	Cm	律儀	.70	.31	22.5	0.75	Cm, Ak
愛嬌がある	.88	-.32	-19.8	0.94	Ak	寛大	.87	.35	22.6	0.93	Nk
気立てのよい	.86	-.29	-19.4	0.91		きちんとした	.71	.30	22.8	0.77	Ck
愛情がある	.85	-.28	-18.3	0.90		真正直	.56	.23	22.9	0.60	Ak
友好的	.88	-.28	-18.1	0.93		お人好し	.71	.34	24.8	0.79	
義理堅い	.72	-.21	-16.9	0.75	Ak	理性的	.39	.17	26.0	0.42	
分け隔てのない	.83	-.26	-16.8	0.91		温厚	.85	.40	26.2	0.94	
気が回る	.82	-.16	-11.6	0.84		誠実	.82	.41	26.5	0.91	Aik, Cm
友愛的	.93	-.18	-9.8	0.95		忠実	.75	.42	29.4	0.86	Cm, Ak
懐が深い	.90	-.14	-8.7	0.90		きっちりした	.52	.31	31.8	0.60	
包容力のある	.93	-.15	-8.3	0.94	Ak	八方美人	.27	.20	33.1	0.34	
親しみがある	.94	-.12	-7.2	0.95		思慮のある	.69	.46	33.3	0.82	
面倒見がいい	.91	-.11	-7.0	0.92		温和	.80	.53	33.6	0.96	Aiwk
朗らか	.92	-.11	-6.9	0.93		甘い	.33	.26	33.7	0.41	
正直	.73	-.10	-6.7	0.75	Aik	配慮のある	.75	.54	36.1	0.92	
人当たりのよい	.94	-.09	-5.6	0.95		なごやか	.72	.59	39.5	0.93	
にこやか	.93	-.08	-4.2	0.94		丁寧	.61	.64	46.8	0.88	
気が利く	.90	-.06	-3.9	0.90	Ai	客観的	.22	.24	49.8	0.32	
愛がある	.96	-.07	-3.8	0.96		従順	.44	.56	51.7	0.70	Cm, Ak
信頼する	.94	-.05	-2.6	0.94		眞面目	.39	.63	58.4	0.73	Ci, Ak
真摯	.82	-.03	-2.5	0.81		穏やか	.46	.77	60.1	0.90	Nk
愛想のよい	.94	-.02	-1.5	0.94	Ak	手加減する	.15	.30	64.0	0.30	
にこにこした	.95	-.03	-1.3	0.95		慎みがある	.40	.80	64.4	0.89	
親しみ深い	.96	-.01	-0.6	0.96		謙虚	.34	.88	69.7	0.94	Ei, Cm
誠意がある	.93	.02	1.2	0.93	Ak	低姿勢	.23	.89	75.8	0.91	
素直	.94	.05	3.2	0.95	Aiwk	口が堅い	.15	.61	77.4	0.64	
理解のある	.94	.09	5.8	0.94		頭が低い	.11	.92	83.8	0.92	
まめ	.49	.10	6.6	0.50		腰が低い	.10	.91	84.1	0.91	
忠誠を尽くす	.61	.09	7.8	0.62		謙遜する	-.06	.85	93.8	0.85	
協調的	.92	.14	8.4	0.93	Ai	遠慮深い	-.07	.91	95.0	0.91	Ak
慈しみのある	.76	.12	9.1	0.77		注意深い	-.09	.74	97.1	0.75	Ck

Table 1 つづき

対人特性語	主成分		角位置 (度)	ベクトル長	先行研究 による分類	対人特性語	主成分		角位置 (度)	ベクトル長	先行研究 による分類
	1	2					1	2			
下手に出る	-.11	.87	97.6	0.87		ものおじする	-.68	.58	140.7	0.87	
慎重	-.20	.76	104.8	0.78		臆病	-.73	.57	143.0	0.92	Ek
引き下がる	-.21	.78	105.4	0.80		おじけづく	-.71	.56	143.2	0.89	Om
遠慮勝ち	-.24	.90	106.0	0.93		身構える	-.69	.52	143.5	0.85	
控え目	-.27	.92	106.7	0.96	Eim	鈍感	-.29	.22	144.5	0.36	Ck
保守的	-.33	.82	113.1	0.87		用心深い	-.64	.45	146.4	0.76	Ck
受身	-.48	.80	120.9	0.94		逃げ腰	-.75	.50	146.9	0.89	
気弱	-.49	.78	122.1	0.91	Ek	堅い	-.75	.46	150.1	0.88	Ek
ためらう	-.49	.78	122.2	0.92		閉鎖的	-.85	.45	152.0	0.96	Em
シャイ	-.52	.80	124.0	0.95		悩む	-.68	.29	158.3	0.72	
口下手	-.53	.76	125.1	0.93	Em	神経質	-.69	.26	161.4	0.72	Ai
受動的	-.56	.78	126.2	0.96	Ek	過敏	-.66	.23	161.9	0.69	Nk
恥ずかしがり屋	-.58	.73	129.7	0.93	Ek	不器用	-.84	.27	162.8	0.87	
弱腰	-.58	.68	131.0	0.88		警戒する	-.84	.26	164.6	0.87	
縮こまる	-.65	.66	134.5	0.92		鈍い	-.41	.11	165.7	0.43	Cik
おどおどした	-.65	.64	135.7	0.91		よそよそしい	-.90	.21	167.8	0.92	Em
内向き	-.69	.67	136.3	0.95	Eimk	敏感	-.38	.10	168.6	0.38	
話し下手	-.67	.64	136.5	0.93		未練がましい	-.74	.17	170.0	0.75	Am
弱気	-.67	.65	136.6	0.93	Ek	淡泊	-.73	.10	172.8	0.75	
うじうじした	-.63	.59	137.3	0.85	Ek	被害妄想が強い	-.84	.11	174.5	0.84	
びくびくした	-.66	.58	139.5	0.87	Ek	素っ気無い	-.92	.02	178.3	0.92	
消極的	-.73	.64	139.8	0.97	Eimk						

注. ベクトル角、ベクトル長はいずれも第1主成分と第2主成分への負荷量をもとに計算。E: 外向性, A: 協調性, C: 誠実性, N: 神経症傾向(情緒安定性), O: 開放性, i: Isaka (1992), w: 和田 (1996), m: 村上 (2003), k: 柏木他 (2005)。先行研究で外向性に分類された語はボールド・イタリック体で、協調性に分類された語はボールド体で示した。ただし分類が割れた語は除いている。外向性に該当する領域は角位置-66°から-24°付近、内向性に該当する領域は角位置106°から168°付近と考えられる。同じく協調性は角位置-30°から34°付近、非協調性は161°から180°(-180°)をまたいで-124°付近の領域に相当すると考えられる。

された。また角位置-75°付近には、立ち向かう、勝ち気、馴れ馴れしいなどが配置され、中心を挟んだ対極には遠慮深い、下手に出る、控え目、受け身、気弱などが配置された。前者は他者に対する強気の態度を、後者は他者に対する受け身の態度を表すと考えられることから、これらを結ぶ軸は支配性に相当すると解釈された。以上のことから仮説通り、海外の先行研究と同様に、日本語の対人特性語が配置された2次元平面上でも支配性、親密性と解釈可能な、ほぼ直交する2軸が見出された。語彙研究から円環が見出されたこれまでの先行研究はいずれもインド・ヨーロッパ語族の言語を対象としていた(De Raad, 1995; Di Blas & Forzi, 1998; Rosén, 1992 参照)。語族の異なる日本語の語彙研究で類似した構造が見出されたこ

とは、対人特性の円環構造および支配性と親密性という対人特性の捉え方の普遍性を示唆していると考えられる。

支配性、親密性の軸と外向性、協調性の関係

-66°から-24°付近には外向性に分類された対人特性語(はっきりした、積極的、外交的、社交的、明るいなど)が、ほぼ対極の106°から168°付近には外向性の逆転項目(内向性)に分類された語が多く見られた(控え目、内向き、消極的、よそよそしいなど)。外向性(内向性)を表す対人特性語の分布は仮説通り支配性と親密性の軸の間であった。つまり外向性は他者に対して親密な態度で積極的に働きかける傾向として捉えることができる。

一方、協調性に分類された語(正直、素直、心

の広い、親切、温和など)は 0° を挟んで -30° から 34° 付近の、親密性の軸を含む領域に分布し、支配性と親密性の軸の間に配置されるという仮説は支持されなかった。協調性の逆転項目(非協調性)に分類された語(神経質、けち、すぐにひがむ、張り合うなど)も、 161° から -124° にわたる、親密性の軸を含む広い範囲にまばらに配置された。こうした分布領域の広さは、協調性が含む概念領域の広さを反映している可能性が考えられる。IPCとFFMの関連を調べた先行研究から予想された位置(親密性の軸を反時計回りに約 45° 回転した 52° 付近)には配慮のある、なごやか、丁寧、穏やか、慎みがあるなどが配置された。これらの語は親密で、自己を強く押し出さない(非支配的)対人傾向(IPCのJK領域)を表しているように思われる。つまり、日本の過去の語彙研究で協調性に分類された語は、IPCではJKとLMの両方の概念を含んでいる可能性がある。また、本研究で用いた対人特性語の分類は過去の語彙研究に基づいており、FFM尺度との関連は検討されていない。FFM尺度との関連に基づけば先行研究とは異なる因子に分類される可能性も考えられる。今後外的基準との関連を検討し、日本人にとっての親密性と協調性の特徴および違いを明らかにする必要があるだろう。

円環の特徴

円周上に布置されたベクトル長の長い($>.9$)対人特性語(106語)の中でも、また分布が密な部分にも協調性や外向性に分類された語が多かった⁸⁾。これは外向性と協調性を表現する用語と対人的側面の関連の強さ、および両次元を表現する用語の豊富さを表している。この結果はIPCが外向性と協調性で構成される次元を詳細に表現しているとする海外の先行研究結果の裏づけと言える。

IPIP-IPC-Jの支配性の近くに配置されたベクトル長の長い対人特性語の中には、IASに見られる、対人的支配を直接表現する用語は見当たらず、口

数の多さや気の強さを表現した用語が配置された。直接的な支配性を表す対人特性語には是認率の基準で分析から除外された語(高圧的、攻撃的、粗暴など)が多かったためと考えられる。支配性を直接に表現する語は社会的望ましさのバイアスを受けると考えられ、測定には向いていない可能性がある。Table 1の語は社会的望ましさの影響を強く受けることなしに回答者の支配性の強さを測定することのできる語だと考えられる。

対人特性語の分布領域はFFMの下位概念ごとに分かれる傾向が見られた。Soto & John (2017)が挙げた外向性のファセットには社交性、自己主張性、活動性の3つがあるが、社交性を表すと思われる語(明るい、社交的、外向的)に比べ、自己主張性を表すと思われる語(物怖じしない、リーダーシップがある、はきはきした)は支配性寄りに配置された。自己主張性はIPCではPAに分類されている(Wiggins, 2003)。つまりFFMの外向性はIPCのNOからPA(の一部)を包含すると考えられる。協調性を構成する他者に対する思いやり、敬意、信頼の3つのファセットでは、信頼に属すると思われる語(信頼する、誠意がある)は親密性の軸から時計回りの方向に、思いやりに属すると思われる語(愛想のよい、親切、優しい)は親密性の軸周辺に、他者に対する敬意に属すると思われる語(心配りのある、気遣いがある)は親密性の軸の反時計回り方向に分布する傾向がみられた。分布の違いは他者への働きかけの程度の違いとして理解可能である。つまり、対人的側面で捉えた場合、信頼は敬意に比べ、他者への働きかけの度合いが強いと解釈できる。このようにFFMのファセットの違いは円環上では対人特性語の分布領域の違いとして表現される可能性がある。今後はファセットまで含めたFFMとの関連

8) 先行研究で分類が分かれた語はそれぞれ1語と計算すると、外向性と協調性には20語、神経症傾向には14語、誠実性には10語、開放性には1語が分類されていた。

の検討が必要であろう。

まとめと今後の課題

本研究では辞書から抽出した対人特性語が主成分分析によって2次元平面上に円環状に配置され、概念上類似した語はお互い近くに、対極的な語同士は円環上も対極に配置されることが確認された。分析対象とした対人特性語を選ぶ過程で、対人特性語としての適切率と、自己評定に用いた際の是認率の分散の大きさを選択基準として設けたが、先行研究同様の円環構造が見出されたことはこの基準が妥当であったことを示唆している。対人特性語同士の円環上の位置関係（概念上の関連の強さ）を示したTable 1は対人特性語の語彙プールとしての活用が期待される。また円環の中に見出された支配性・親密性と解釈可能な軸の存在は、この2軸の汎文化的特性を示唆している。外向性と2軸との位置関係も先行研究通りであった。

その一方で親密性と協調性の次元は明確には区別されなかった。また支配性として表現される対人特性語にも海外の先行研究との違いが見られた。これらの違いが研究手続きやサンプルの違いによるのか、日本人の対人特性の反映なのかは今後の検討課題である。特に、今回の研究対象者は大学生に限られている。大学生は友人との付き合いでは自己開示し、積極的な相互理解を求める傾向があるが、中学生は防衛的な姿勢で付き合う傾向があるとされている（落合・佐藤、1996）。それゆえ例えば中学生であれば外向的な対人特性語をより支配的な意味合いで受け取り、結果的に今回の結果とは異なる語彙配置が得られる可能性も考えられよう。本研究知見がどの程度一般化可能なのか、対象者を変えつつ検討する必要がある。

また日本人の対人特性の特徴を明らかにするためには、対人特性を測定する簡便な尺度の構成が必要だと考えられる。円環状に分布する対人特性語のどこからどこまでを1つの特性（下位尺度）とするべきか、他の尺度との相関を調べつつ、対

人特性語同士のまとまりを明らかにしていく必要もあるう。

引用文献

- Allport, G. W. (1937). *Personality: A psychological interpretation*. Oxford, England: Holt. (オールポート、G. W. 詫摩武俊・青木孝悦・近藤由紀子・堀 正 (訳) (1982). パーソナリティ——心理学的解釈—— 新曜社)
- Ansell, E. B., Kurtz, J. E., & Markey, P. M. (2008). Gender differences in interpersonal complementarity within roommate dyads. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 34, 502–512.
- De Raad, B. (1992). The replicability of the Big Five personality dimensions in three word-classes of the Dutch language. *European Journal of Personality*, 6, 15–29.
- De Raad, B. (1995). The psycholexical approach to the structure of interpersonal traits. *European Journal of Personality*, 9, 89–102.
- Di Blas, L., & Forzi, M. (1998). The circumplex model for interpersonal trait adjectives in Italian. *Personality and Individual Differences*, 24, 47–57.
- Foa, U. G. (1965). New developments in facet design and analysis. *Psychological Review*, 72, 262–274.
- 橋本泰央 (2018). 辞書的アプローチによる対人特性語の選定 早稲田大学大学院文学研究科紀要, 63, 39–54.
- 橋本泰央・小塩真司 (2016). 対人円環モデルに基づいたIPIP-IPC-Jの作成 心理学研究, 87, 395–404.
- 今川民雄・津村俊充・大坊郁夫・林 文俊 (1984). 対人のオリエンテイションの研究 (3) ——対人行動の構造について—— 日本心理学会第48回大会発表論文集, 663.
- Isaka, H. (1992). A study on the structure of conceptual representations of trait terms in everyday Japanese language. *Japanese Psychological Research*, 34, 77–88.
- Jones, D. N., & Paulhus, D. L. (2014). Introducing the Short Dark Triad (SD3): A brief measure of dark personality traits. *Assessment*, 21, 28–41.
- 柏木繁男・辻平治郎・藤島 寛・山田尚子 (2005). 性格特性の語彙的研究LEX400のビッグファイブ的評価 心理学研究, 76, 368–374.
- Leary, T. (1957). *Interpersonal diagnosis of personality: A functional theory and methodology for personality evaluation*. New York: Ronald Press.

- Markey, P. M., & Markey, C. N. (2007). Romantic ideals, romantic obtainment, and relationship experiences: The complementarity of interpersonal traits among romantic partners. *Journal of Social and Personal Relationships*, 24, 517–533.
- Markey, P. M., & Markey, C. N. (2009). A brief assessment of the interpersonal circumplex: The IPIP-IPC. *Assessment*, 16, 352–361.
- 松村 明(編) (2006). 大辞林第三版 三省堂
- McCrae, R. R., & Costa, P. T. (1989). The structure of interpersonal traits: Wiggins's circumplex and the five-factor model. *Journal of Personality and Social Psychology*, 56, 586–595.
- Mendez, M. F., Owens, E. M., Jimenez, E. E., Peppers, D., & Licht, E. A. (2013). Changes in personality after mild traumatic brain injury from primary blast vs. blunt forces. *Brain injury*, 27, 10–18.
- 水野邦夫 (1994). 対人行動の構造の円環性の検討と機能的柔軟性指標(FFI)の作成 社会心理学研究, 10, 114–122.
- 村上宣寛 (2002). 基本的な性格表現用語の収集 性格心理学研究, 11, 35–49.
- 村上宣寛 (2003). 日本語におけるビッグ・ファイブとその心理測定的条件 性格心理学研究, 11, 70–85.
- 落合良行・佐藤有耕 (1996). 青年期における友達とのつきあい方の発達の変化 教育心理学研究, 44, 55–65.
- 大渕憲一・堀毛一也(編) (1996). パーソナリティと対人行動 誠信書房
- Plutchik, R., & Conte, H. R. (Eds.) (1997). *Circumplex models of personality and emotions*. Washington, DC: American Psychological Association.
- Rosén, A. S. (1992). The circle as a model for the interpersonal domain of Swedish trait terms. *European Journal of Personality*, 6, 283–299.
- Saucier, G., Ostendorf, F., & Peabody, D. (2001). The non-evaluative circumplex of personality adjectives. *Journal of personality*, 69, 537–582.
- 新村 出(編) (2008). 広辞苑第六版 岩波書店
- Soto, C. J., & John, O. P. (2017). The next Big Five Inventory (BFI-2): Developing and assessing a hierarchical model with 15 facets to enhance bandwidth, fidelity, and predictive power. *Journal of Personality and Social Psychology*, 113, 117–143.
- 戸刈正入 (1977). 対人関係の研究(1)——ICL性格評定票の作成—— 愛媛大学教育学部紀要 第1部 教育科学, 23, 41–56.
- 豊田秀樹(編著) (2012). 因子分析入門——Rで学ぶ最新データ解析—— 東京図書
- Trapnell, P. D., & Wiggins, J. S. (1990). Extension of the interpersonal adjective scales to include the Big Five dimensions of personality. *Journal of Personality and Social Psychology*, 59, 781–790.
- 和田さゆり (1996). 性格特性用語を用いたBig Five尺度の作成 心理学研究, 67, 61–67.
- Wiggins, J. S. (1979). A psychological taxonomy of trait-descriptive terms: The interpersonal domain. *Journal of Personality and Social Psychology*, 37, 395–412.
- Wiggins, J. S. (2003). *Paradigms of personality assessment*. New York: Guilford Press.
- Wiggins, J. S., & Broughton, R. (1991). A geometric taxonomy of personality scales. *European Journal of Personality*, 5, 343–365.
- Wiggins, J. S., Phillips, N., & Trapnell, P. (1989). Circular reasoning about interpersonal behavior: Evidence concerning some untested assumptions underlying diagnostic classification. *Journal of Personality and Social Psychology*, 56, 296–305.

—2018.8.9受稿, 2019.2.3受理—

Structure of Japanese Interpersonal Trait Words: An Analysis Based on the Psycho-Lexical Approach

Yasuhiro HASHIMOTO^{1,2} and Atsushi OSHIO³

¹Graduate School of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

²Department of Life Care, Teikyo Junior College

³Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

THE JAPANESE JOURNAL OF PERSONALITY 2019, Vol. 28 No. 1, 16–27

This study examined the circumplex structure of Japanese interpersonal trait words based on a psycho-lexical approach. Seven hundred and nineteen undergraduate students rated 259 interpersonal trait words in regard to how accurately these words described their personality; the data were analyzed using principal component analysis. The trait words were plotted on a two-dimensional space according to their conceptual similarity, which showed a circumplex structure with two orthogonal axes—Dominance and Affiliation—suggesting the cross-cultural validity of the circumplex structure of the interpersonal trait words. Extraversion trait words were located at almost the same position as in previous studies using languages other than Japanese. Agreeable trait words were located near the Affiliation axis, which requires further research. In conclusion, trait words may be useful for constructing an item pool of interpersonal traits in Japan.

Key words: lexical approach, interpersonal, circumplex